

「大地震に備える」副読本の活用状況

資料-3

1. 配布数 95,600部 (平成27年3月10日現在)

2. 配布先

1都3県の公立小学校 : 2,940校に5冊ずつ
サンプル送付し活用を提案

埼玉県: 103校、千葉県: 825校、東京都: 1,153校、神奈川県: 859校

平成26年夏に、2,940校から授業で活用いただける学校を毎日新聞と連携して62校抽出し、必要部数を提供

加えて、送付したサンプルや平成25年冬に開催した「道路の防災・減災パネル展」を見て個別問合せいただいていた学校にも必要部数を提供(平成26年度末、5校。引き合いあり、今後追加予定)

国土について調べよう	1
地震について調べよう	3
道路について調べよう	5
道路の安全について調べよう	7
道路の安全について調べよう	9
道路の安全について調べよう	11
道路の安全について調べよう	13
道路の安全について調べよう	15
災害時にも役立つ道路について調べよう	17
道路の安全について調べよう	19
道路の安全について調べよう	21
資料編	23-38



3. 小学生向け新聞での情報発信

毎日こども新聞: 130万部 (平成24年7月20日掲載)

毎日小学生新聞: 9万部 (平成27年3月30日掲載予定)



「津波防災マップ」で見つかる危険ポイント

国土交通省 関東地方整備局
毎日新聞社
「津波防災マップ」で見つかる危険ポイント



寺本 謙一
1956年生まれ、玉川大学教育学部教授、学部長・通徳教育部長、武蔵大学附属小学校教諭などを務めた経験がある。専門は、社会科学教育、生活科教育、安全教育、環境教育。

防災副読本 **大地震に備える**
命の道を考えよう

国土交通省と毎日新聞社は、防災副読本「大地震に備える-命の道を考えよう」を発刊しました。

災害時に大切な避難や救助に欠かせない道路の役割について、普段から意識しておくことが大切です。この冊子は、防災関係者、土木や道路の専門家の意見をもらい、国土について学びながら防災を考えるものです。今回この本を毎小読者のみなさんにプレゼントします。ぜひ読んでみてください。

【応募方法】
毎小読者のみなさんへお礼として、お電話でお申し込みください。
〒100-8051 東京都千代田区千代田1-1-1
毎日新聞社 毎日こども新聞編集部
お申し込み先 TEL: 03-3212-2272 (平日10時-17時)

100名にプレゼント!!



「大地震に備える」副読本の活用状況

4. 授業での活用状況 (平成27年2月20日 神奈川県大井町立湘光中学校防災授業)

大井町立湘光中学校防災授業実施報告書
大井町立湘光中学校
大井町立湘光中学校
大井町立湘光中学校
大井町立湘光中学校

要いなくば備えなし
副読本「備え」



防災安全授業 講話・実験・実習タイムスケジュール

時刻	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00
10:00	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」
10:30	実験 副読本「備え」	実験 副読本「備え」	実験 副読本「備え」	実験 副読本「備え」	実験 副読本「備え」
11:00	実習 副読本「備え」	実習 副読本「備え」	実習 副読本「備え」	実習 副読本「備え」	実習 副読本「備え」
11:30	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」
12:00	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」	講話 副読本「備え」



「大地震に備える」副読本の活用状況

5. 災害時に公助が効率的に機能するための啓発への活用

目次	1
国土について調べよう	1
新しい町・新しい山・流れが急な川	1
川の水より低い橋	3
地震について調べよう	5
地震が起きる仕組み	5
くわがえしあそびで地震の仕組み	7
地震直下地域について調べよう	9
地震の大きさと震度の違い	9
震度と被害の大きさ	11
避難と救助について調べよう	13
避難の安全	13
命の道	15
災害時にも役立つ道路について調べよう	17
緊急輸送道路でのきまりごと	17
緊急輸送道路のネットワーク	19
道路や橋を壊さない	21
索引	23-28



副読本 P17~18 「緊急輸送道路でのきまりごと」

走行中に地震が発生したら

- 1: 急ブレーキは禁物です。徐々にスピードを落とし、道路の左側にクルマを止めましょう。
 - 2: エンジンを切り、揺れがおさまるまでは車外に出るはいけません。
 - 3: 窓を閉め、ドアをロックしないでキーはつけたまま徒歩で避難しましょう。
- クルマでの避難はやめましょう。緊急自動車などの通行の妨げになります。**

高速道路では、さらに注意を

- ハザードランプを点灯させ、高速走行している前後のクルマに注意を呼びかけましょう。
- 約1kmごとにある非常口から徒歩で地上に脱出できます。

〔消防庁 防災マニュアル—震災対策啓発資料—〕より



国土交通省 関東地方整備局

(参考) 関東地整のその他の取組: 新聞広告での啓発 平成27年3月11日
読売新聞(東京版) 130万部、毎日新聞(東京版) 29万部
産経新聞(東京版) 27万部、東京新聞 24万部

～もし、首都直下地震が発生したら～

【車を運転中に地震が発生したら】

- 急ブレーキは禁物です。徐々にスピードを落とし、道路の左側に停車しましょう。
- エンジンを切り、揺れがおさまるまでは、車の外に出ないようにしましょう。
- 車を離れる際は、窓を閉め、ドアをロックしないで、キーはつけたまま徒歩で避難しましょう。
- 車検証や車内の貴重品を持って避難しましょう。

(出典「消防庁 防災マニュアル—震災対策啓発資料—」より作成)

車の新たな利用はお控えください!!
皆様のご理解、ご協力をお願いします。

「災害対策基本法」に基づき、緊急車両の通行ルート確保のための一般車両の移動についてのお知らせ

- 緊急車両通行の妨げとなる車両の運転者に対して移動を命ずる場合があります。
- 車両運転者が不在の時は道路管理者自ら車両を移動する場合があります。

● 緊急車両(救急車や消防車など)の通行ルート確保は、災害時の初期期活動でもっとも重要であり、その遅れがそのまま全体の救援の遅れにつながります。

● 緊急車両の通行には、道路上に放置された一般車両の移動が必要です。

(写真)2011年3月11日(港区三田三丁目)

国土交通省 関東地方整備局 **東京国道事務所**

Twitterで災害に伴う通行止め等の防災情報を発信します。
東京国道事務所 Twitter > @mlit_toukoku
関東地方整備局 Twitter > @mlit_kanto_road

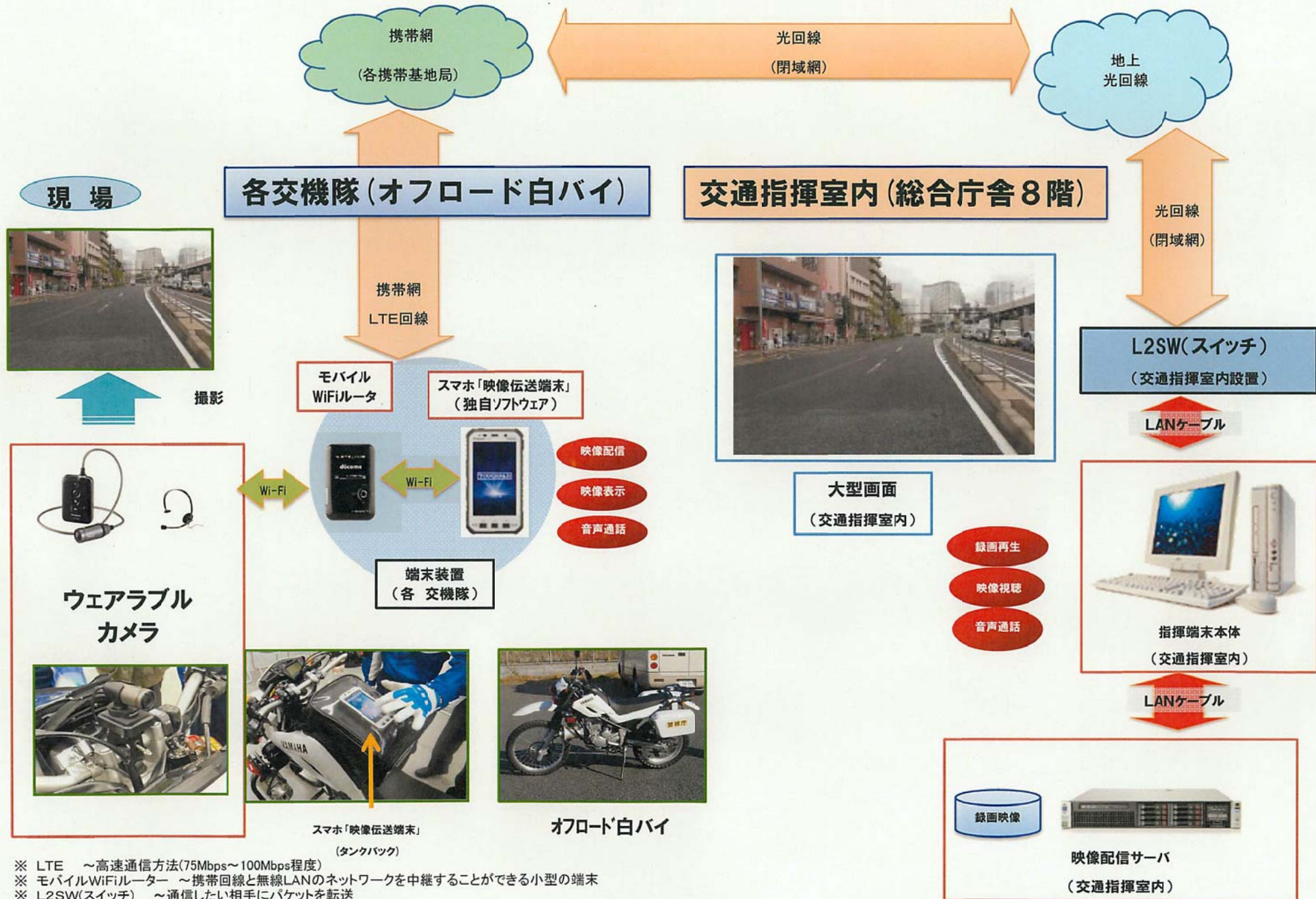
道路の真状を発見したら道路緊急ダイヤルにお知らせください

#9910 無料 24時間受付

道路交通に関する情報は……(公財)日本道路交通情報センター
携帯電話短絡ダイヤル……#8011(携帯・PHS用)
都内情報(東京センター)……TEL.050-3369-6613
※道路により緊急対応を優先しては、道路緊急ダイヤルに優先して通報をお願いします。

ホームページ……<http://www.jarttc.or.jp/>

オフロード白バイ映像伝送システム(概要)



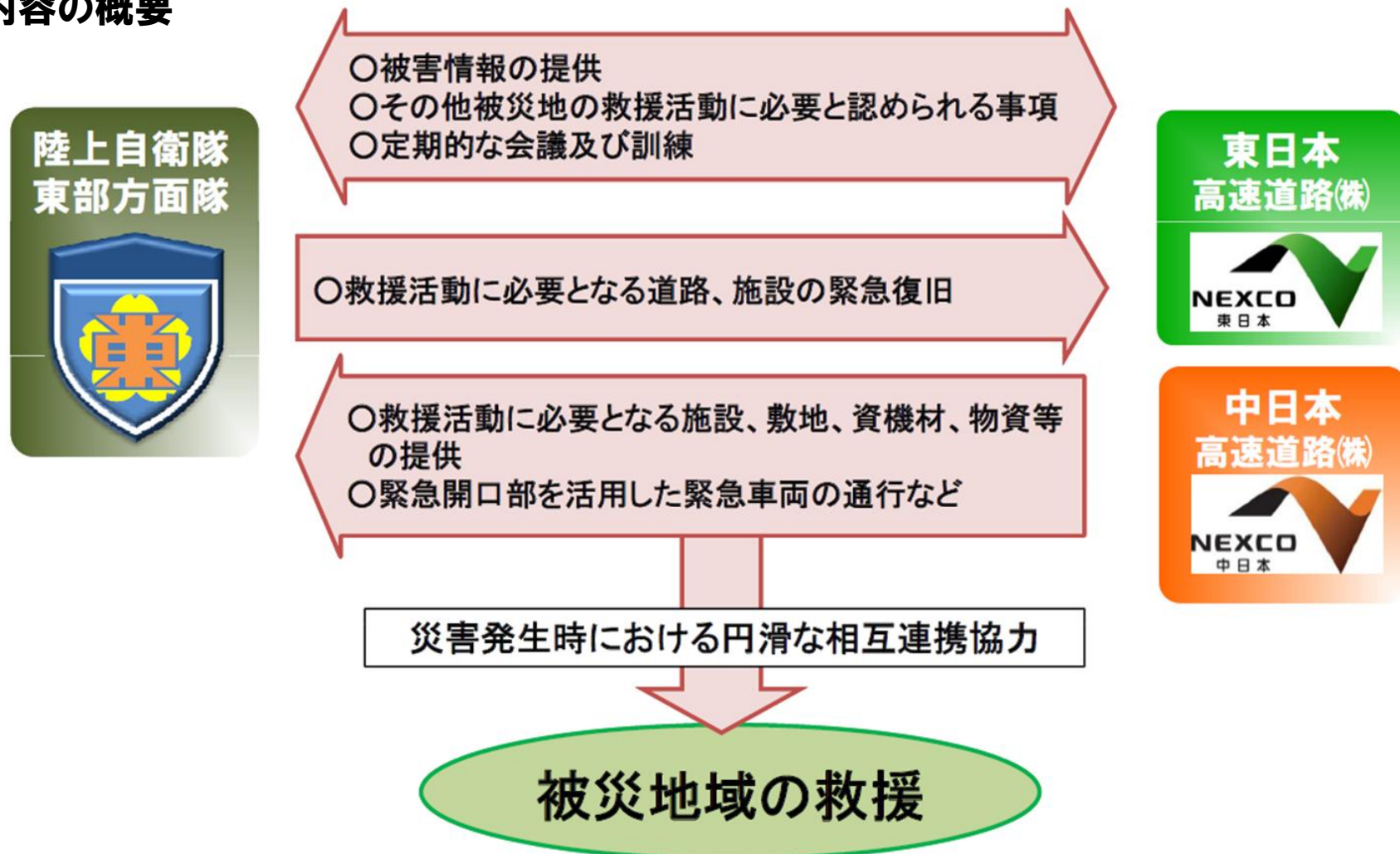
※ LTE ~高速通信方法(75Mbps~100Mbps程度)
 ※ モバイルWiFiルーター ~携帯回線と無線LANのネットワークを中継することができる小型の端末
 ※ L2SW(スイッチ) ~通信したい相手にパケットを転送
 ※ 閉域網 ~複数の認証方式を用いた高セキュリティ

陸上自衛隊とNEXCOとの連携事例

○陸上自衛隊東部方面隊とNEXCO東日本及びNEXCO中日本は、災害発生時における相互協力について円滑な連携を図ることを目的に平成24年6月に連携協定を締結。

- 協定の名称 「陸上自衛隊東部方面隊と東日本高速道路株式会社との連携に関する実施協定」
「陸上自衛隊東部方面隊と中日本高速道路株式会社との連携に関する実施協定」

■協定内容の概要



陸上自衛隊とNEXCOとの連携事例

○連携協定に基づき、陸上自衛隊施設学校(勝田駐屯地)とNEXCO東日本谷和原管理事務所は「災害時等におけるSA等の道路使用に関する確認書」を平成27年6月に締結。

■確認書の内容

常磐自動車道谷和原管理事務所管内の休憩施設において、陸上自衛隊施設学校が行う訓練の実施及び災害時の道路使用に関して、予め使用の範囲、手続き等について定めるもの。

【期待する効果】

- 使用手続きの簡素化により、訓練が軽易に実施でき災害対処能力の向上を図る
- 自衛隊とNEXCO東日本との連携が強化され、首都直下地震など災害発生時の実効性が向上
- 連携の強化により、災害発生時における災害派遣部隊の行動の迅速化を図る

⇒防災拠点として整備した常磐道守谷SAは、首都直下地震など首都圏での大規模災害時に東北等から増援される部隊の中継基地として活用。



H24.7.9 常磐道守谷SAでの通信訓練状況



装輪装甲車による通信の送受信



通信用アンテナの設置

H25.7.17 常磐道美野里PAでの通信訓練状況